

5回 勝浦運輸区廃止粉碎 支部代 に向け総決起を確認!

五月一九日、第五回支部代表者会議が開催され、勝浦運輸区廃止攻撃粉碎に向けて、組織の総力をあげて起ちあがる方針が確認された。

鴨川運輸区構想は不当労働行為

一切箝口令が敷かれたなかで進められようとしている「鴨川運輸区構想」―勝浦運輸区廃止攻撃は、何ひとつ合理性のない動労千葉破壊攻撃だ。

何よりも証拠に、千葉支社当局は、動労千葉や国労には箝口令を敷く一方で、JR総連・革マルと結託して、JR総連の組合員に対してだけ、未だ存在しない職場に「鴨川運輸区」への「転勤希望」をとって歩いているのだ。動労千葉の拠点勝浦支部をつぶし、JR総連の組合員をかき集めた運輸職場をデッチ上げようとしているのである。

また、その事前作業が、この間「鴨川運輸区構想」のベースとなつている安房鴨川の車掌支区から国労の組合員を強制配転している。まさに、不当労働行為そのものだ。

総力をあげて闘う方針を確認!

これは、国鉄分割・民営化攻撃の開始以来、動労千葉の根絶を目的として強行されてきた、業務移管―成田運輸区廃止攻撃

に連なる攻撃だ。われわれは、この攻撃を、八五・一一第一波スト、八六・二第二波ストを始めとした、組織の総力をあげた闘いをもってはね返し、強固な団結を守りぬいてきた。怒りも新たに、当時にもまさる決意で闘いに起ちあがらなければならぬ。

支部代では、基地廃止攻撃に対しては、これを絶対に許さない立場から、ストライキを含むあらゆる手段を尽くして闘いぬく方針が確認された。そして、当面、県下の労組はもとより、勝浦・御宿・大原など地元の全市民から勝浦運輸区廃止反対署名を集める総行動を開始することが合わせて確認された。全組合員が火の玉となって闘いに起ちあがろう。

背景にあるのは JR体制の危機

勝浦運輸区廃止攻撃の背景にあるのは、二進も三進もいかな

い「分割・民営化体制」の危機である。

清算事業団の抱える累積債務は、またも九千億円増加し、JR貨物の赤字転落のみならず、三島JRの経営危機は、すでにどうしようもないまでに深刻化している。三島各社の九五年事業計画は、すべて赤字前提計画となつている。現在のJR体制では、もはや「十年目の総括評価」という問題をのりきりようもなくなつてきているのである。

清算事業団闘争をめぐっても、明らかに、「十年目」を目前にして、これに「決着」をつけてしまわなければ大変なことになるという政治判断がはたらいている。JR総連・革マルの切り捨てと申刺しにすかたちで、清算事業団闘争を終決させようというのである。

つまり、「JR体制」を形づくってきた一切の仕組みが完全に行きづまつてきているのだ。このような事態を背景として、当局は、いわば最後の闘雲な攻

撃をしかけようとしているのである。これが勝浦運輸区廃止問題の本質だ。こんなやり方を許すことは絶対にできない。直ちに闘いの体制を整えよう! 「鴨川運輸区構想」を粉碎するぞ! 署名運動を成功させよう!

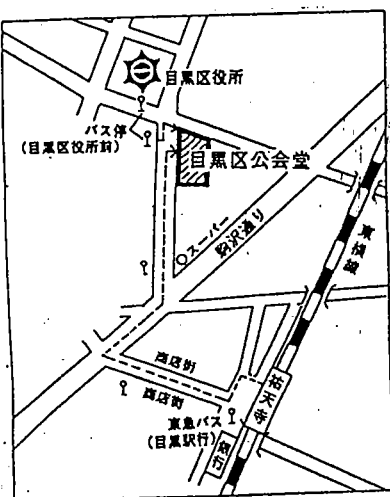
千葉支社、二二五日に鴨川運輸区新設提案を行なう」と通知!

十九日の支部代終了後、夜になって、千葉支社は、「二五日に鴨川運輸区新設の説明を行なう」と通知してきた。絶対に許さない! これまで一切箝口令を敷いていたことはもとより、このような通知のやり方自体、全く意図的と言う他ない。闘いの火ぶたは、いよいよ切つて落とされた。勝浦運輸区廃止攻撃を絶対に粉碎するぞ! 直ちに総決起体制をつくりあげよう!

五・二八東京へ労働者・市民の合流を勝ちとろう!

5・28三里塚集会

日時 5月28日 午後5時
会場 東京・目黒公会堂
主催 三里塚芝山連合空港反対同盟



指定列車 千葉駅6番線一五時発快速列車最後部

祐天寺駅より徒歩約8分